

ウナギ「受難の時」

一字一筆

静岡の今

102

夏の土用は立秋(8月7日)前の18日間をいい、1年で最も暑い期間と言われる。その期間中にある「丑の日」(今年は7月21日と8月2日)には、古くから夏バテしないように精のつくものを食べる習慣があ

り、ウナギはその代表的な食べ物である。江戸時代に夏場の客不足に悩むウナギ屋が「本日本用の丑の日」という看板を掲げて繁盛したという説もある。期間中に丑の日が2回もある今年の土用は、ウナギにとって「受難の時」である。

は約1534トン(2019年)で、全国では鹿児島、愛知、宮崎県に次いで4位。シェアは約9%に止まる(日本養鰻漁業協同組合連合会「静岡市駿河区」)。それでも「ウナギの静岡」と言われるのは、120年前に浜名湖周辺でウナギの本格的な養殖が国内で初めて成功し、今や国内消費のほとんどを占める養殖ウナギの「発祥の地」とされることと、「ウナギの街」と言われる浜松市の文化だろう。

浜松市民の「ウナギのかば焼き」の1世帯当たり年間購入金額は約6300円(15〜17年平均・総務省家計調査)で全国一。人口1人当たりの「ウナギ料理店」の数は全国平均の4倍というデータもあり、静岡県が「ウナギ王国」であるというイメージに大きく貢献している。

養殖に頼るウナギ資源を守るため、環境省は二ホンウナギを「絶滅危惧種」に指定。養殖池に入れる稚魚(シラスウナギ)の上限は年間21・7トに制限されている。

浜名湖畔にある島「乙女園」に「うなぎ観音」(魚籃観音像)が立っている。毎年8月24日の供養祭で、全国の養鰻業者らは食用に供したウナギの供養とシラスウナギの豊漁を祈る。

今年は梅雨明けが遅れている。人とウナギの共生を見守る観音像(全長3・3メートル)を驟雨がたたいた。

(前静岡県監査委員・富永久雄)



浜名湖畔に立つ「うなぎ観音」＝浜松市西区、全日写連・高山申二さん撮影